

自閉スペクトラム障害の人の 問題提起行動とコミュニケーション支援

ペンショナー児童精神科医
a.k.a Doctor-PECS
門 眞一郎
<http://kado2006.sakura.ne.jp>

1

開示すべき利益相反(COI)はありません。

2

自閉スペクトラム(障害) Autism Spectrum (Disorder) (AS(D))

- 米国精神医学会の「精神疾患の分類と診断の手引き(DSM-5®)」の”Autism Spectrum Disorder”の日本語訳は、「自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害」
- DSM-5-TRでは、「自閉スペクトラム症」(2023)
- 私は、「自閉スペクトラム(AS)」と「自閉スペクトラム障害(ASD)」とで考える。

3

自閉スペクトラム(障害)

- AS: 生まれつき脳機能のタイプが多数派とは違う。
- AS: Disorderではなく、Difference。
- 発達に著しいメリハリ(減り張り)がある。
- 「障害」とは、継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態。
- 「障害」は、メリハリと環境(社会的障壁)との関係の中に生じる事態。
 - 「社会的障壁」とは、メリハリがある者にとって、日常生活または社会生活を営む上で障壁となるような、社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもの。

4

いわゆる《問題行動》について

- 問題行動 (problematic behaviors)
- 行動問題, 行動上の問題 (behavior problems)
- 不適応行動 (maladaptive behaviors)
- 不適切な行動 (inappropriate behaviors)
- 状況にそぐわない行動 (CIB: contextually inappropriate behaviors) ← PECS
- 行動障害、強度行動障害など
- チャレンジング行動 (challenging behaviors)

5

《問題行動》ではなく《問題提起行動》

- 問題行動・・・個人モデル(医学モデル)
- 問題提起行動・・・社会モデル
- 眼前に問題、すなわち「社会的障壁」が立ちただかつて「！」という問題提起であり、
- 「その社会的障壁を取り除いてほしい」という要請でもある。
- 問題提起行動が繰り返される=強化されている

6

問題提起

- コミュニケーションの問題は、多くの問題提起行動の根本的な原因である。
- 他者からのコミュニケーションの理解が難しい。
- 他者への欲求・要望・感情・体調の表現(表出)も難しい。
- 問題提起行動という手段の方が、他のコミュニケーション手段よりも効果大きい。
- 「コミュニケーションについての、周囲(社会)の理解と支援が悪いことが問題だ!」との問題提起。

7

7

機能的コミュニケーション・トレーニング (FCT: Functional Communication Training)

なんと約40年も前!

- Carr & Durand(1985)の論文「機能的コミュニケーション・トレーニングによる問題提起行動の軽減」。
- 問題提起行動と言語的コミュニケーション行為は、形式は異なるが、機能としては等価。後者を強化すれば、前者は弱まる。従って機能アセスメントが重要。
- この論文以降、FCTに関しては、現在までに200本以上の論文が書かれている(主に英米)。
- 奇しくも同じ1985年に、絵カード交換式コミュニケーション・システム(PECS®)が開発された。

8

8

問題提起行動の機能(理由/目的)

- 1980年代に、行動心理学の分野では、問題提起行動をコミュニケーションの一形態として捉える方向にシフトした。
- 行動を変えるためには、「どんなメッセージをその行動はコミュニケーションしているのか?」(機能)を考える。
- 問題提起行動を、機能が等価で社会的に受け入れられるコミュニケーション行動に置き換える。
- 問題提起行動への支援にはまず、
 - 機能(理由/目的)を知るための機能的行動アセスメント(FBA: functional behavior assessment)を実施。

9

9

機能的行動アセスメント(FBA)の実施方法

- インタビュー
 - インタビュー用紙を使い、複数の人からの情報
 - 機能的行動アセスメント・インタビュー用紙 (Glasberg, 2006)
- 直接観察
 - 複数の場面で、複数の観察者で
 - 散布図(スキャッタープロット)、ABCデータ、記述分析(Glasberg, 2006)
- チェックリストと質問紙
 - 動機アセスメント尺度(MAS) (Durand & Crimmins, 1988)
 - 機能分析スクリーニング・ツール (FAST) (Iwata et al., 2013)
- 機能分析 (FA)
 - 代替アセスメント・モデル(Glasberg, 2006)

10

10

昨日刊行



11

11

PECSと問題提起行動

- Frea, Arnold, Vittimberga (2001), Charop-Christy, Carpenter, Le, Leblanc & Kellet(2002), Ganz, Parker & Benson(2009), Danov, Hartma, McComas & Symons (2010)など。
- いずれも、問題提起行動の軽減効果あり。
- しかし、Freaではフェイズ1-3, Charop-Christyではフェイズ1-4, Ganzではフェイズ1, Danovではフェイズ1
- すべてPECSの6フェイズの途中まで
- PECSと9つの重要なコミュニケーション・スキルについて取り上げた研究は見当たらない。

12

12

PECSとともに教える
9つの重要なコミュニケーション・スキル

表出スキル	理解スキル
① 欲しいモノやしたいこと(強化子)の要求	⑥ 要求実現まで「待つ」こと、「ない」ことへの理解
② 手助けの要求	⑦ 絵カード指示の理解
③ 休憩の要求	⑧ 活動間の移行の理解
④ 拒否(いいえ)	⑨ スケジュールの理解
⑤ 肯定(はい)	

(PECSトレーニング・マニュアルp.243-271)

13


なぜ重要か

- 欲しいモノや必要なモノを手に入れたいということを、穏やかにかつ効果的に**表出**できないと、同じ結果を手に入れるために、別の手段を試す可能性がとて高くなる。
- 別の手段とは、例えば攻撃・破壊・自傷などの問題提起行動。ひいては強度行動障害。
- また、他者からのメッセージが**理解**できないと、危険なことになったり、苦痛を覚えることになる可能性がある。
(ボンディ『教育へのピラミッド・アプローチ』)

14

問題提起行動への支援

- 支援計画の策定は、機能的行動アセスメントに基づく。
- 支援の焦点は、行動の抑止ではなく、置換。
 - 望ましくない行動にだけ焦点を合わせるのではなく、むしろ望ましい行動にこそ焦点を合わせる。
- 機能が等しい適切な代替行動を教え、強化する。



15

行動の機能(井上雅彦)

(「強度行動障害のある人の「暮らし」を支える」p.139-)

- コミュニケーションの機能
 - 注目要求の機能①
 - 物や活動の要求機能②
 - 回避や逃避の機能③
- 自動強化の機能④
(行動自体が生み出す感覚刺激による強化)

16

状況にそぐわない行動の機能

(アンディ・ボンディ「教育へのピラミッド・アプローチ」より)

結果事象を求めて(コミュニケーション機能)

- 1) 強化子を**獲得**(結果事象-正の強化)
 - 注目①, 具体物・活動②, 感覚的(刺激)④
- 2) 嫌悪事象(弱化子)から**逃避/回避**(結果事象-負の強化)
 - 他者からの要求, 活動, 状況, 苦痛 ③

先行事象に誘発されて

- 強化子の消失/遅延
- 強化率低下
- 痛み、恐怖、興奮

17

問題提起行動: 支援の三本柱

- **先行支援**: 先行事象(A)に対して
 - 望ましい行動や代替行動のきっかけや手がかり(弁別刺激)を提供(**視覚的構造化**)
 - 機能的コミュニケーション・トレーニング(PECSなど)
 - 機能的に等価な代替行動を教える
- **分化強化**: 行動(B)と結果事象(C)に対して
 - 機能的に等価な代替行動や望ましい行動を**分化強化**
 - 他行動の分化強化(DRO)…問題提起行動が出ていないことを強化
- **消去**: 結果事象(C)に対して(消去パーストや間欠強化に注意)
 - それでも出続ける問題提起行動を**強化しない**

18

先行事象(A)の変更には
構造(意味と見通し)を伝える
視覚的構造(明確)化(私の分け方)

- 空間の視覚的構造化
- 時間の視覚的構造化
 - カレンダー
 - 活動間スケジュール
 - 活動内スケジュール
- 視覚的プロンプト
(構造情報の強調や明瞭化)

19

PECSとともに教える重要な
コミュニケーション・スキル

表出スキル	理解スキル
① 欲しいモノやしたいこと(強化子)の要求	⑥ 要求実現まで「待つ」こと、「ない」ことへの理解
② 手助けの要求	⑦ 絵カード指示の理解
③ 休憩の要求	⑧ 活動間の移行の理解
④ 拒否(いいえ)	⑨ スケジュールの理解
⑤ 肯定(はい)	

(PECSトレーニング・マニュアルp.243-271)

20

19

20

行動(B)には、機能的に等価な代替行動

機能	代替行動
欲しいモノ・活動・感覚刺激(強化子)の獲得	絵カードで要求する 「はい」を伝える
嫌悪的なことからの逃避/回避	「いいえ(拒否)」を伝える 休憩を要求する 手助けを要求する
直前の状況に誘発されて	「待つ」を理解する スケジュールを理解する 未定/変更を理解する 体調をコメントする

21

21

例えば

行動	機能	FEABの候補
他の人からゲーム機を奪い取る	獲得	「貸してください」、「一緒にやろう」の言葉や絵カードでの要求の仕方を教える
作業の材料を投げ散らかす	回避	休憩の要求、「課題完了」の報告、確認や手助けの要求の仕方を教える
並んで待っている間に人をたたく	誘発	「待つこと」や「ないこと」の理解を教える

22

22

機能I: 欲しいモノやコトの獲得

表出スキル	理解スキル
① 欲しいモノやしたいこと(強化子)の要求	⑥ 要求実現まで「待つ」こと、「ない」ことへの理解
② 手助けの要求	⑦ 絵カード指示の理解
③ 休憩の要求	⑧ 活動間の移行の理解
④ 拒否(いいえ)	⑨ スケジュールの理解
⑤ 肯定(はい)	

(PECSトレーニング・マニュアルp.243-271)

23

23

絵カード交換式
コミュニケーション・システム(PECS®)

- ・ 準備トレーニングは不要。
- ・ 最初のステップから: 自発的な要求を教える。
 - 効果: 対人交流を始めるために、本人はコミュニケーションの相手に接近する(相手の注意を惹く)。
- ・ 追加スキル(待つやダメに応じる、スケジュールの理解など)を教える。
- ・ 言葉の発達を妨げないどころか促す。
- ・ プロンプト依存(指示待ち)が激減する。
- ・ 科学的根拠のある実践(Evidence-based practice)。

24

24

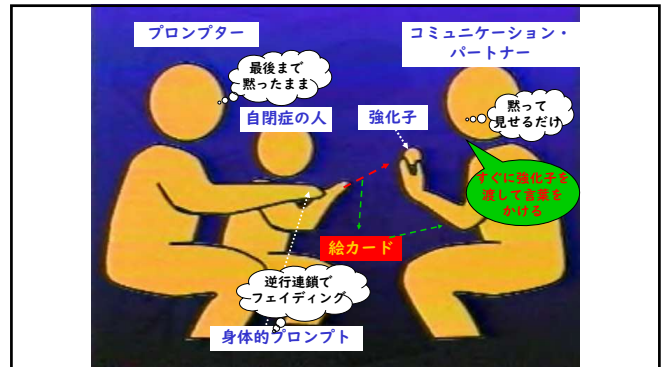
PECSトレーニングの6フェイズ

- 0: 準備:強化子アセスメント, 絵カード作成
- 1: 絵カードで**自発的**に要求
- 2: 離れた位置から絵カードを**自発的**に交換しにきて要求(**自発的**な対人接近)
- 3: 要求に使う絵カードを弁別し**自発的**に選択
- 4: 「○○ください」という文で**自発的**に要求
- 5: 「何がほしい?」と聞かれて**応答的**に要求
- 6: 質問に**応答的**にコメント
自発的にコメント

2人制
プロンプト

25

25



26

機能2:嫌なことからの逃避/回避

表出スキル	理解スキル
① 欲しいモノやしたいこと(強化子)の要求	⑥ 要求実現まで「待つ」こと、「ない」ことへの理解
② 手助けの要求	⑦ 絵カード指示の理解
③ 休憩の要求	⑧ 活動間の移行の理解
④ 拒否(いいえ)	⑨ スケジュールの理解
⑤ 肯定(はい)	

(PECSトレーニング・マニュアルp.243-271)

27

27

表出スキル②:手助け要求を教える

- 強化子を楽しむためには手助けが必要な場面を設定。
- 子どもが困ったと思ったとき(痙攣を起す前)に、プロンプターが「てつだって」カードを使うことを身体プロンプトで教える(2人制プロンプト)。

28

28



29

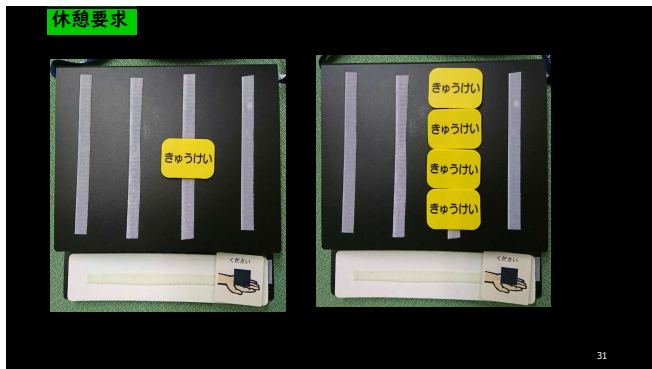
29

表出スキル③:休憩要求を教える

- 休憩の概念は絵にしにくいので、色と形が違うカードにことばを印字したものを使う
- 休憩エリアを用意(休憩カードを貼り、ソファやクッション、マットなどと、タイマーを用意)
- 休憩で得るのは一時的な回避や逃避。他の強化子ではない。
- 通常2分程度にタイマーを設定

30

30



31

休憩要求を教える

- 逃避したくなる状況を設定
- 痼癢が本格化する前に、休憩カードを渡すことをプロンプターがプロンプトして教える(2人制プロンプト)。
- 「休憩していいよ」と言い、休憩エリアに誘導し、タイマーを設定するよう身体プロンプトする。
- タイマーが鳴ったら、止めることを身体プロンプトし、次に得られる強化子を示し、元の活動にもどす。(まず強化子!)
- 身体プロンプトをフェーディングする。

32

機能3:直前の状況による誘発

- 強化子の消失/遅延
- 強化率低下
- 痛み、恐怖、興奮
- 「待つ」の理解を教える
- 「ない」「ダメ」の理解を教える
- 感情や体調のコメントの表出を教える (PECSフェイズ6)

33

機能3:直前の状況による誘発


表出スキル	理解スキル
① 欲しいモノやしたいこと(強化子)の要求	⑥ 要求実現まで「待つ」こと、「ない」こと ¹⁾ の理解
② 手助けの要求	⑦ 絵カード指示の理解
③ 休憩の要求	⑧ 活動間の移行の理解
④ 拒否(いいえ)	⑨ スケジュールの理解
⑤ 肯定(はい)	

(PECSトレーニング・マニュアルp.243-271)

34



理解スキル⑥:「まって」を理解する

- 強化子を要求してきたら、「まってね」と言い、**視覚的手がかり**となる「まって」カードを渡す。
- 1秒以内に回収し、「よく待ちました」と言い、強化子を渡す。
- 様々な状況で1日に何度もトレーニングする。
- 一度に1,2秒ずつ待ち時間を延ばす。
- 待つ間に不適切な行動が出たら、「まって」カードを取り上げ、違う課題に注意を向けさせ、その後トレーニングを再開する。



35

ない(NO)の理解

- カラの袋や容器、皿を見せる 
- 手を開いて見せる 
- そしてユニバーサルNOシンボルを貼る 

36

結果事象(C)に関して

- 望ましい行動や機能的に等価な代替行動の強化
- 望ましくない行動(問題提起行動)の消去
- 消去バーストと間欠強化に注意

37

37

ダイナミック冰山モデル(門, 2014)

障害の社会モデルの考え方を取り入れ、社会的障壁と合理的配慮によって、氷山は海面上に大きく競り上がったり(すなわち障害レベル)、海面すれすれに止まったりする(個性・多様性のレベル)と動的に考えて、《ダイナミック冰山モデル》と名付けた。

さらに、ワークシートは、メリだけではなくハリも忘れずに書き込めるようにした。支援を考えるときに、重要なのはハリだからである。

38

38

自閉スペクトラム(障害)のダイナミック冰山モデル(2014)

《社会モデル》

- 氷山全体が自閉特性(メリハリ)
- 海面上の氷が問題行動化した自閉症特性(メリ)
- 理解の不適切度および支援の不適切度を海水の塩分濃度に譬えると...

39

39

無理解・不適切な対応の場合(自閉スペクトラム障害)

● 理解・支援が不適切ということは(社会的障壁)、海水の塩分濃度が高いということ。

● 塩分濃度が高くなると、氷山は水面上に顔を出す。

● 問題提起行動が生起、増悪する。

不幸い対応
たとえば言葉だけでなくどくとメリをつく(=社会的障壁)

40

40

無理解・不適切な対応の場合(自閉スペクトラム障害)

● 理解・支援が不適切ということは(社会的障壁)、海水の塩分濃度が高いということ。

● 塩分濃度が高くなると、氷山は水面上に顔を出す。

● 問題提起行動が生起、増悪する。

不幸い対応
たとえば言葉だけでなくどくとメリをつく(=社会的障壁)

41

41

適切な理解と支援の場合(自閉スペクトラム)

● メリハリ(特性)や状況因を理解し、適切な支援方法を見つけることが、塩分濃度を下げる。

● 塩分濃度が下がれば、氷山は沈む。

● 問題提起行動は軽減あるいは消失する。

不幸くない対応
たとえばハリを活かした合理的配慮として理解/表出コミュニケーションを視覚的に支援

42

42

ABCDEF分析(門)

- A: 先行条件 (Antecedent)
- B: 行動 (Behavior)
- C: 結果事象 (Consequence)
- D: 障害特性/メリ (Deficit)
- E: 障害特性/ハリ (Extra or Excess)
- F: 機能 (Function)

43

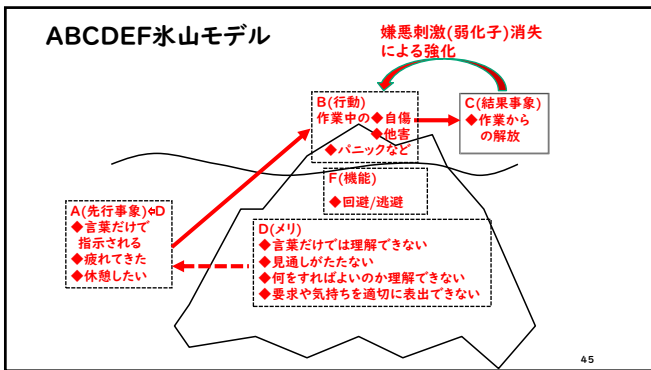
43

ABCDEF分析に基づく支援

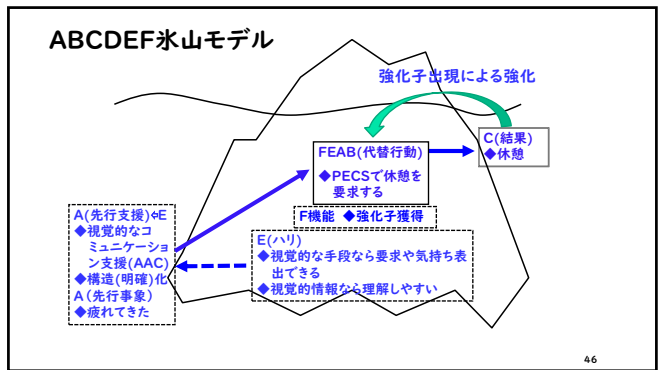
- A: 先行事象(入力情報の整理e.g.視覚的構造化)
- B: 機能的に等価な代替行動 (FEAB: Functionally Equivalent Alternative Behavior)を教える(出力)
- C: 結果事象(強化子出現による正の強化、弱強化子消失による負の強化)
- D: 問題提起行動の理由をメリから考える
- E: AとBに活かすハリを考える
- F: Bの機能からFEABを考える

44

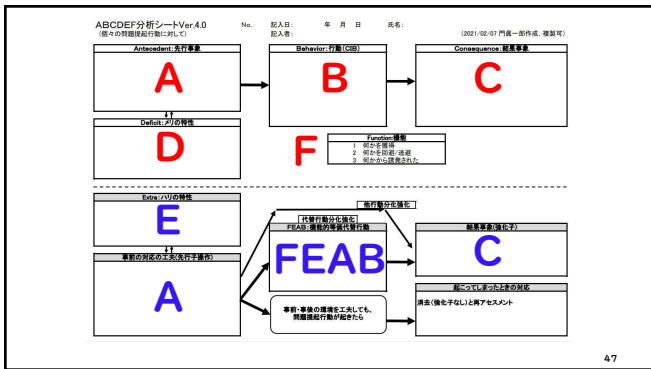
44



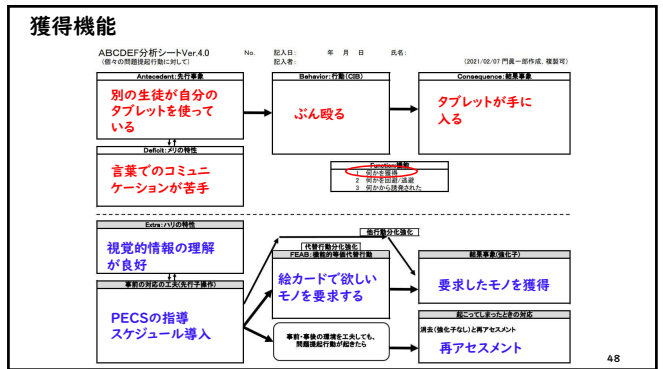
45



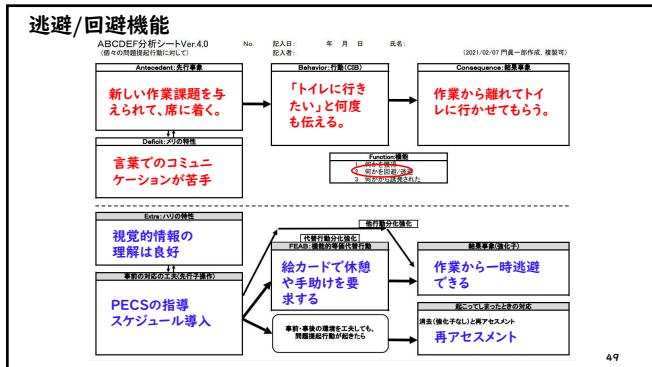
46



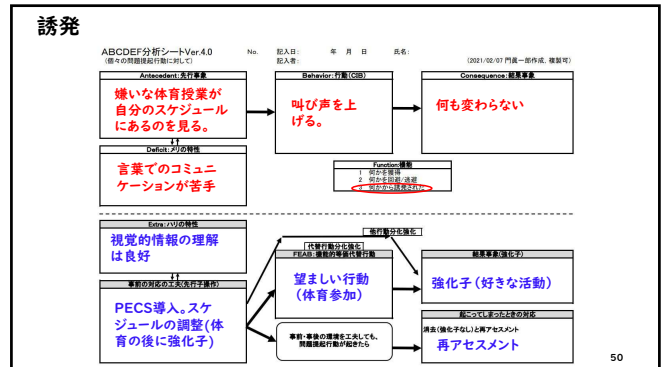
47



48




49



50

児童精神科医門真一郎の落書帳

ダイナミック冰山モデルや
ABCDE分析による支援シートは
私のHPからダウンロードできます。
ご自由にお使いください。



<https://kado2006.sakura.ne.jp/book1/book1.htm>

51

51

何事も百の治療よりーの予防 問題提起行動予防法TOP10より

- 選択肢を与える
- 本人の特性を考慮する
- 自閉症の人にポジティブな注意をたくさん向ける
- 好みのモノや活動への十分なアクセスを提供する
- 仕事や学習を興味深いものにする
- 日々を構造化し興味深い活動に打ち込めるようにする
- 強力なコミュニケーション・スキルを構築する
 - ほとんどの問題提起行動は、自分の欲求やニーズをコミュニケーションする効果的な方法がない場合に発生する。強力なコミュニケーション・スキルがあれば、要求するために不適切な行動をとる必要はない。何よりもコミュニケーション・スキルの構築が優先する。(グラスバーク『自閉症の人の問題提起行動の解決』より)

52

52

50年前の 小澤勲の言葉


もし新しく到達し得た私なりの視点に
立った《治療》というものがあるとすれば、
自己表現の道を確保し、自己の感受性を
研ぎ澄ましながら、現実と闘い、
症児と我々が共に現実を切り拓く武器を、
いかに闘い取って行くのかという
ところにしかあり得ません。
(小澤勲(1972)。《幼児自閉症論の再検討》の自己批判的再検討。児童青年精神医学とその近接領域、
Vol.13, p.54-63)

自己表現の手段を確保し、「社会的障壁を除去せよ」と、当事者と共に問題提起を行う。すなわち機能的コミュニケーション支援!

53

53

ご清聴ありがとうございました



自閉症の人の
機能的行動アセスメント
(FBA)
問題提起行動を理解する



自閉症の人の
問題提起行動の解決
(FBA)
FBA(機能的行動アセスメント)に基づき支援する

54

54